

平成 16 年度

武生市蔵の辻地区における
中心市街地再整備を通したまちづくりの展開に向けた調査

報 告 書

平成 17 年 3 月

特定非営利活動法人 ラピユタ創造研究所

目 次

1	活動の背景	1
2	活動の経緯と目的	1
(1)	活動の経緯	1
(2)	活動の目的	1
3	活動の内容および成果	2
(1)	対象地区の歴史的建築物の現状調査	2
	・コミュニティ・ビジネスの研究	2
	・蔵の辻地区でのコミュニティ・ビジネスの検討	4
	・コミュニティ・ビジネス実験オープン	6
(2)	町屋改修方法の講習会の開催	7
(3)	地域の資源を掘り起こす「中沢新一講演会」の開催	10
(4)	蔵の辻界隈マップの作成	11
4	今後の展開	12
(1)	コミュニティ・レストランの開店	12
(2)	町屋改修に向けて	12
(3)	中沢新一氏の講演から地域資産ストックの方向へ	12
(4)	蔵の辻界隈マップからインターネットモールおよび歴史デジタルアーカイブへ	12
5	活動ポイント	13
(1)	活動の人材	13
(2)	活動のための資金調達	13
(3)	活動のネットワーク・支援	13

1 活動の背景

武生市の「蔵の辻」を含む周辺一体は、武生市の「中心市街地活性化基本計画」に基づいて整備が進められている。その中心となっている「蔵の辻」は、「蓬莱町地区街なみ環境整備事業」によって平成13年までにハード整備が完了し、国土交通省から都市景観大賞を受けた。その後、「蔵の辻」周辺への出店や建物の建設が少しずつ進み、併せて若者たちによるイベント企画も繰り広げられるようになり、高齢者や個性を求める若者を中心とした郊外から街中への回帰現象が見え始めている。

2 活動の経緯と目的

(1) 活動の経緯

ラピュタ創造研究所は、「蔵の辻」のハード整備が整った2001年（平成13年）から本格的に「蔵の辻」周辺のまちづくりに関わりだした。街なみ環境整備の地元受け皿になった「蓬莱町再生事業推進協議会（現、蔵の辻協議会）」は、蔵の辻地区内の地権者が構成メンバーで、地区内のハード整備とその維持管理を主な活動内容としており、地区周辺のハード整備進展、地区内外でのイベント企画、および地権者以外の人々のこの地域のまちづくりへの参加の必要性を感じ、ラピュタ創造研究所の地域への積極的な関わりが始まった。武生市とは、「蔵の辻界限賑わいプロジェクト」を2002・2003・2004年度（平成14・15・16年度）と協働で開催している。地域内に有機栽培物販売の店を持つ「NPO 法人土といのちの会」は、地産地消活動を共同で行っている。「いわさきちひろ生誕の地顕彰会」は、いわさきちひろの生まれた家の復旧や資料展示を共同で行っている。空き家になっていた町屋を改修して広く市民に貸与している「武生ルネッサンス」からは、改修された町屋を定期的に借りて町屋のよさを味わっていただく企画を実施している。木工指物職人の多く住む「タンス町通り」の人たちとは、その街並み整備の基礎資料収集や研究を一緒にしている。最近、蔵の辻近隣に進出して来た高齢者向けマンションの事業者とも、景観や新入居者と地元民との関係を協議し、アドバイスしている。

(2) 活動の目的

ラピュタ創造研究所の活動の目的は、21世紀の武生の中心市街地に適合したライフスタイルを研究し、まちづくりや生活文化に関する事業の企画立案・実施および情報発信などを行なうことによって、持続可能な地域社会を実現することである。そのライフスタイルも、この武生の気候風土に合ったものを追求していく。生活文化に関する事業を実施する際には、グローバルな視点から環境性を、ローカルな視点から歴史性を考慮し、問題・課題解決手段としては、NPOやファシリテート技術の習得を心がけている。

こうして、地域に根ざしたものをとことん追及していけば、そこから、日本中のどの地域にも適合できる普遍的なやり方が抽出されてくると考えている。私たちの事業を通じて抽出されたライフスタイルや持続可能な地域社会の構築の仕方が、21世紀の小さな地方都市のモデルになると思う。

3 活動の内容および成果

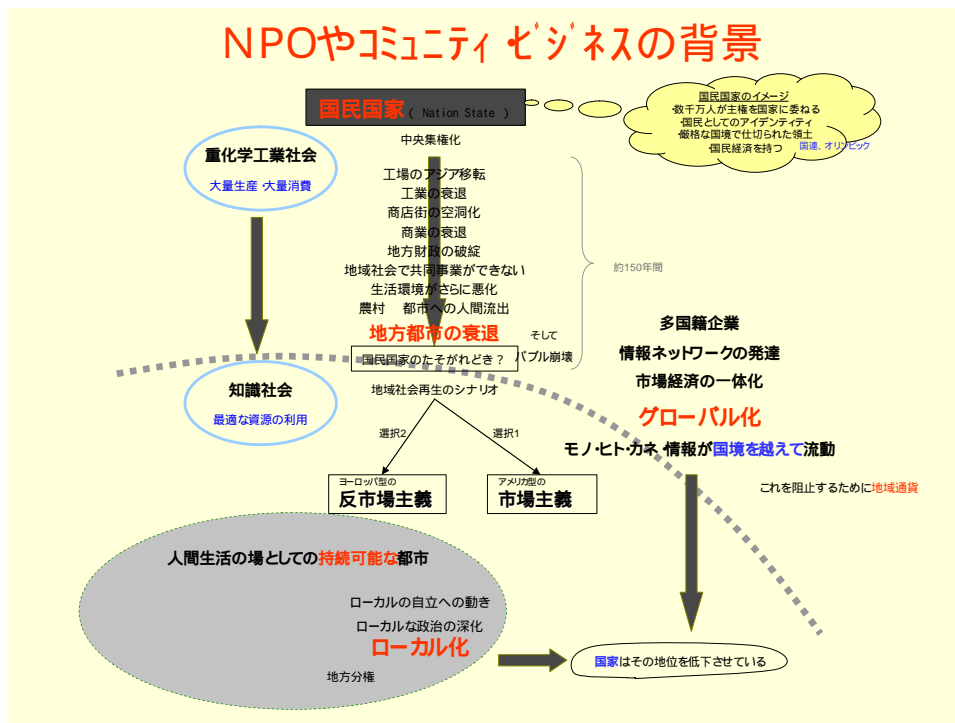
(1) 対象地区の歴史的建築物の現状の調査

蔵の辻地区を核とした中心市街地再整備および町屋・空き店舗等の活用事例調査、商店街・NPO・市民・武生市役所等のまちづくりへの取り組み事例調査、現在進行中である空き店舗を利用したコミュニティ・レストランの開設準備など、コミュニティ・ビジネスへの取り組み調査を実施し、「武生市蔵の辻地区」におけるまちづくりの現状と特質および今後の課題と展開の調査・分析を行なった。

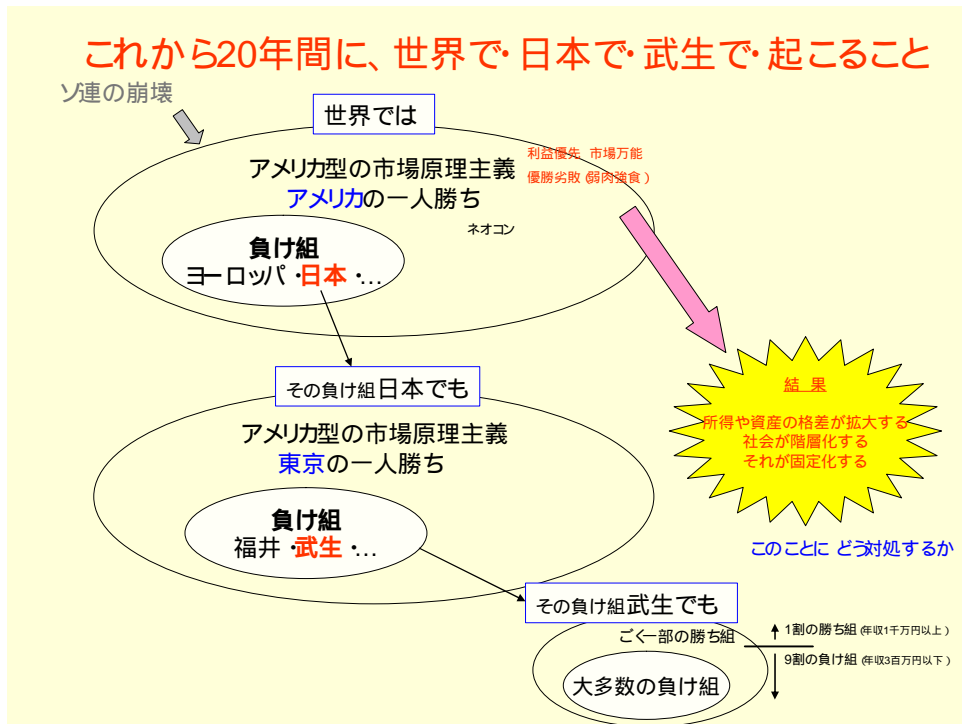
蔵の辻地区の歴史的建築物として現存する蔵を中心に調査した結果、102棟もの蔵があることがわかった。これらの蔵や町屋の活用方法として「地産地消および資源循環を考慮した中心市街地での食品加工販売」をNPOによるコミュニティ・ビジネスの視点から検討した。

コミュニティ・ビジネスの研究

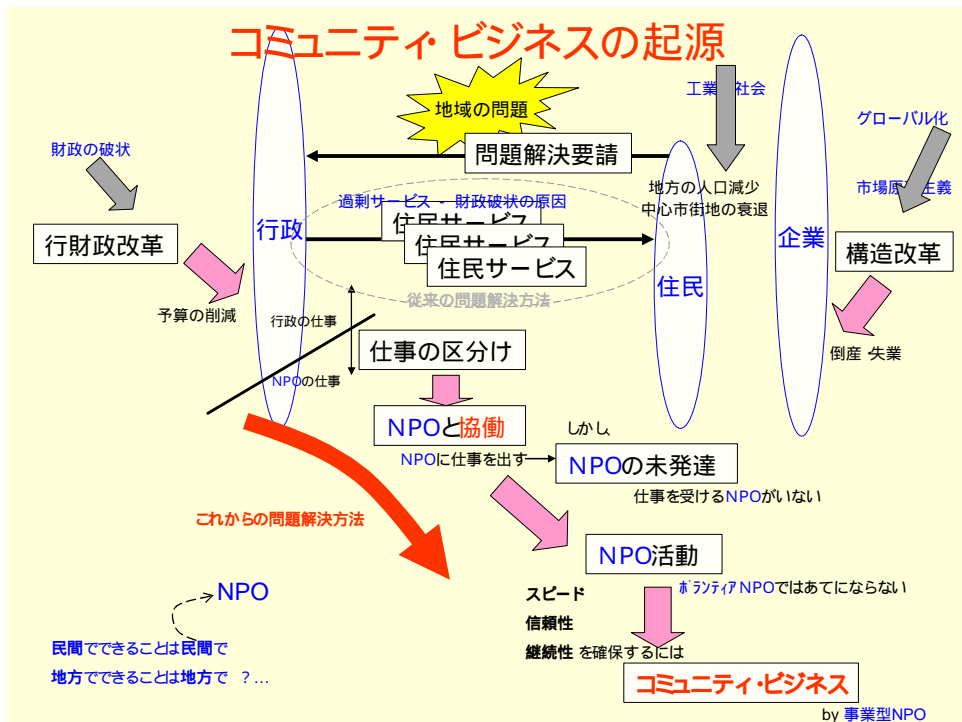
NPOやコミュニティ・ビジネスの背景を、まず、調べた。



前頁の図にNPOやコミュニティ・ビジネス示す背景をもとに、武生の20年後を大胆予測した。極端な場合、このような予測も現実になる可能性がある。



コミュニティ・ビジネスの起源を考察した。



コミュニティ・ビジネスを以下のように定義した。

コミュニティビジネスとは何か

コミュニティビジネスとは、

- ・ **コミュニティ**に基盤をおき、
- ・ **地域の問題を解決するための活動**であり、

以下の五つの特徴をもつ。

- ・ **ミッション性**
- ・ **非営利追求性**
- ・ **継続的成果**
- ・ **自発的参加**
- ・ **非経済的動機による参加**

コミュニティとは、

- 「一定のルールを共有する人々の集まり」
- ・ 生活地域を共有する「**ローカル・コミュニティ**」
- ・ 関心や想いを共有する「**テーマ・コミュニティ**」

コミュニティに貢献するというミッションを持ち、その推進を第一の目的とする
地域の問題を解決するというミッション

利益最大化をめざしていない

(経済的ないし非経済的な)具体的成果を上げ、活動が継続して行われている

活動に参加する人は自発的に参加している

活動に参加する人の動機は金銭的なものを第一とせず、むしろ、生き甲斐、人の役に立つ喜び、コミュニティへのむしろ、生き甲斐、人の役に立つ喜び、コミュニティへの貢献など、非経済的なものが主である。

蔵の辻地区でのコミュニティ・ビジネスの検討

蔵の辻地区を中心とした中心市街地におけるコミュニティ・ビジネスの可能性を、地産地消および資源循環を基軸にして考えてみた。まずは、武生市中心市街地の現状である。



武生市中心市街地における蔵の辻地区の位置図を示す。



近郊農地と蔵の辻地区の位置関係を示す。



以上のような考察から次のようなコミュニティ・ビジネスのモデルを考えた。



コミュニティ・レストラン実験オープン

蔵の辻地区でのコミュニティ・ビジネスの試みとして、ラピユタ創造研究所では蔵の辻地区にある空き店舗を利用し、コミュニティ・レストランの実験オープンを重ねている。現在は、まだ、レストランというよりは、茶房であるが、将来的には近郊農地からの食品販売も兼ねたコミュニティ・レストランを目指している。併せて、高齢者を対象とした地域ケアの拠点にもならないかと考えている。



(2) 町屋改修方法の講習会の開催

2005年2月12日、蔵の辻界隈の住民・事業者および外部からの新規出店を考えている人を対象に、歴史的建築物を活かしたまちづくりを手がけている地元の建築士(小川利男氏)を講師に向かえ、町屋の活かし方、その修理方法等の講習会を開催した。

参加者は、近所の人、郷土史家、自分の改修町屋予定のある人、町屋への出店希望者など17名であった。

講習会の内容は、下記のURLで、インターネット上にも公開されている。



<http://laputa21.com/saijiki/050212matiyakaisyuu/050212maiyakaisyuu.html>

【府中町屋倶楽部】

元は「藤井道齋」という屋号の江戸時代から続いた目薬販売の商家であった。建築後約80年が経っている。数年前に「武生ルネサンス」という市民グループが自費と寄付金とで建物を改修し、現在は展示会や講演会、演奏会の会場として利用されている。中庭に続く建物の後半分は、日本料理屋になっている。

この町屋改修のポイントは、

柱や壁を覆っていた化粧合板を撤去した。

土間のコンクリートを撤去し、土を入れてタタキにした。

商店街アーケードで塞がれたひさしを再現した。

表のシャッターを撤去し、ガラス木戸にした。



【寺出陶器店本店】

ここも江戸時代から続く陶器店であるが、80年前の武生の大火で類焼したので、建物自体はやはり建築後約80年が経っているものと推測される。蔵の辻地区の街なみ環境整備事業の一環として、行政からの補助金と建物所有者の出費で整備された。従来通り、現在も陶器店として営業している。

この町屋改修のポイントは、

表のシャッターを撤去し、ガラス木戸および木枠ウインドウにした。

店舗内部は、以前に化粧合板を使って改修したときのままである。

商店街アーケードで塞がれたひさしを再現した。

道路に面した二階窓に連子格子を再現した。

建屋側面を覆っていた鉄板を杉板に変えた。仕切り部分には銅版を用いた。



【寺出陶器店出店】

この店は、最近できたばかりの新築建物である。前出の寺出陶器店本店とは旧北国街道を挟み、南北に面した位置にある。ただし、周辺の街並みに合わせて町屋風に仕上げている。この街区は、隣接した蔵の辻地区とは異なり、街並み協定が結ばれていないので町屋改修に際しても行政からの補助は出ず、自費による新築工事となった。中庭には観音さんが安置されている。

この町屋改修のポイントは、

周りの街並みに合わせた、新築であった。

中庭が周辺景観とよくマッチしている。



【荒竹屋】

ここは元寝装具店だったが、最近、商売を止めてしもた屋になっている。しもた屋にする際に周辺の街並みに合わせて町屋風に改修した。ここも街並み協定が結ばれていない街区にあるので、町屋改修に際しても行政からの補助は出ず、自費による改修工事となった。昔の表木戸が残っていてそのまま使用されているが、その収納のよさに皆感心する。店土間には石で葺いた4畳半ほどの地下室があり、これは大火事などの際に貴重品をここに投げ込んで難を逃れたものと思われる。

この町屋改修のポイントは、

表のシャッターを撤去し、ガラス木戸および漆喰壁にした。

柱や壁を覆っていた化粧合板を撤去した。

商店街アーケードで塞がれたひさしを再現した。



【小川建築設計事務所】

ここは、今回の講師である小川利男氏の建築設計事務所である。元は江戸時代から続いた鮮魚店であったが、10年ほど前に店を閉じ、設計事務所用に建物を自費で改修した。

この町屋改修のポイントは、

基本構造は、昔の鮮魚店のときのままである。

表のシャッターを撤去し、ガラス木戸にした。

柱や壁を覆っていた化粧合板を撤去した。

玄関近くに、展示コーナーを設け、街中ミニ博物館を目指している。

仕切り戸に蔵の内扉が使われていたりし、さすが建築士の斬新さが見られる。



(3) 地域の資源を掘り起こす「中沢新一講演会」の開催

2005年2月27日、中沢新一講演会「網野善彦が語ろうとしたこと」を開催した。講演会会場は、地元武生市だけでなく、福井市、鯖江市、福井県全域、さらに金沢や京都からも駆けつけた熱心な聴衆200人で満席に埋まった。中沢氏の叔父にあたる歴史家網野義彦氏の持論を語る形で、宿神から聖徳太子信仰を経て親鸞の一向宗信仰の神髄を解説し、その信仰を支えたヤマの民、カワの民、職人などについても詳しく論説を加えた。社会に閉塞感の漂う時代の変り目には、この原日本人の魂のよりどころである宿神がむっくりと頭をもたげるのだという。



故網野善彦氏は、かつて福井県内に研究フィールドを持っており、「福井県史」執筆者の一人でもあった。1928年生まれ。歴史家。東京大学文学部卒。名古屋大学助教授、神奈川大学短大部教授、同大学特任教授を歴任。専門は日本中世史、日本海民史。主著に「日本中世の非農業民と天皇」「無縁・公界・楽」「蒙古襲来」「日本の歴史をよみなおす」「日本社会の歴史」「日本とは何か」ほか多数がある。昨年2月27日死去。網野氏の著書「異形の王権」の中には、正応5年秋、他阿上人が越前国惣社（現在武生市にある総社大神宮）に参詣したとき、平泉寺衆徒たちが時衆に対して打った飛礫のことが書かれている。

一方、今回の講演者である中沢新一氏は、1950年、山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程終了。宗教学者、哲学者。中央大学教授。「チベットのモーツァルト」「森のパロック」「哲学の東北」「フィロソフィア・ヤポニカ」「カイエ・ソバージュ対称性人類学」ほかの著書がある。最近、「僕の叔父さん網野善彦」を出版した。

中沢氏の講演は、地域のアイデンティティ確認へと多くの聴衆をあらためて導いた。講演後に寄せられた電話や電子メールやはがきによる講演の反応は、中沢氏の講演内容への圧倒的な共感であった。



(4) 蔵の辻界隈マップの作成

蔵の辻を中心とした武生市の中心市街地を案内する「蔵の辻界隈マップ」(A3 版表カラー裏白黒)を1万部作成した。従来あったマップの範囲拡大・内容充実版で、武生市役所各部課、図書館、蔵の辻協議会、JR武生駅、観光案内所、商店街、およびラピュータ創造研究所窓口で配布されている。現在、武生市の中心市街地を散策しようとするときの唯一の案内マップになっており、とても重宝がられている。

マップには、通りの呼び名、公衆トイレの位置、駐車場の案内、蔵の位置、歴史的建造物、寺社、越前おろしそば店、食堂・小料理屋・料理屋、和菓子・洋菓子店、職人店、作家の工房・アンテナショップ、ギャラリー・音楽スタジオ、まちなか博物館、これら各店のミニ解説と電話番号など、現地に何度も足を運んで得た情報が記載されている。



蔵の辻界隈マップ

マップの裏は、蔵の辻界隈の解説で、以下のことが記載されている。

- 蔵の辻整備の経緯
- 蔵の配置や役割
- 札の辻
- 長谷川一夫主演の東宝映画撮影の呉服店
- 蔵の辻付近の明治初期の地籍図
- 町用水と松並木
- 藩医屋敷跡
- まちなか博物館(武生市指定)

4 今後の展開

(1) コミュニティ・レストランの開店

コミュニティ・ビジネスを研究する中でコミュニティ・レストランを開店する動きが出てきている。地域の高齢者をどうケアするかという地域の問題を解決する方法としてコミュニティ・レストラン（癒しの漢方薬茶房）を検討し、地区内の空き店舗を利用して実験オープンを始めた。今後、実験オープンを繰り返しながら内容を更につめていく予定である。可能なら、来年度中にコミュニティ・レストランを正式オープンさせたいと考えている。

(2) 町屋改修に向けて

町屋改修および利用に向けた助言を続ける。町屋改修講座は今後も連続して続ける予定である。また同時にまちなか巡りツアーも例年通り年間を通して開催する予定である。さらに、今回の講座参加者の中から、町屋改修アドバイザー兼修理者になりたいという人が出てきているし、町屋での商売を希望する者も出てきている。これらの町屋に対する需要と供給の中間支援するシステムを構築していきたい。

(3) 中沢新一氏の講演から地域資産ストックの方向へ

中沢新一氏の講演で刺激された地域のアイデンティティ確認を地域経済活性化のための知識資産のストックと活用の方向にもっていききたい。そのためには、まず、蔵の辻地区（蔵の辻界隈マップに示された区域ぐらい）というかなり狭い範囲でのヒト、モノ、カネ、情報、知識のフローとストック分析をする。それには、蔵の辻地区のヒト、モノ、カネ、情報、知識のデータベースを作成する必要がある。ヒトだと、地区内の職人、芸術家、造形作家、料理人、学者、芸人、技術者、宗教家、政治家、資産家、事業家、企業家、ボランティア活動家だったりする。モノだと、歴史的建造物、公共施設、企業、歴史資料、社寺、町屋、地区内にある 100 以上の蔵群、道路、水路、路地、広場、各家のお宝、骨董品などである。カネや情報や知識となると、どのようなものが該当するかを検討する必要がある。もし、必要なのに不足しているものがあるなら、職人、芸術家、学者などの地区内移住を支援したり、公共施設や店舗を誘致したり、情報や知識のデータベースや利用システムを構築したりして地域資産を高め、住環境の磨き上げと地区経済の活性化に取り組んでいきたい。

(4) 蔵の辻界隈マップからインターネットモールおよび歴史デジタルアーカイブへ

蔵の辻界隈マップは、「バーチャル蔵の辻」というインターネットモールへと発展する可能性がある。現在、ラピュタ創造研究所は、武生市の補助を得て「武生コミュニティサイト」という地域ポータルサイトを作成中である。そのメニューの一部として「楽天市場」のようなインターネット上で商品やサービスの売買をできるシステムを作成することを検討している。マップへの店舗記事掲載の取材で何度も各店に足を運んで、店舗データペー

スは既に出来上がっている。あとは、どのような商品やサービス、あるいは予約をインターネット上で処理するかということと、事業として採算が取れるかどうかのフィージビリティ・スタディを実施して、事業化への方向付けをすることである。

また、蔵の辻界隈マップを作成する過程で歴史的な資料を相当数デジタル化したので、これらを利用して、蔵の辻地区の歴史デジタルアーカイブの作成も可能となる。折りしも、武生市史編纂委員会では、新しい市史編纂に際し、デジタルアーカイブ技術の導入を検討している。今回のマップ作成および歴史的建築物の調査で培った歴史資料のデジタル化技術とデジタルデータが、市史編纂作業への新技術導入のきっかけになりそうである。さらにデジタル化された蔵の辻地区のデータは、地区や町内の案内パンフレットの基礎データとして利用させてほしいとの希望も寄せられている。

5 活動ポイント

(1) 活動の人材

特定非営利活動法人ラピュタ創造研究所の理事および有給スタッフが主として活動している。イベント当日だけ手伝ってくれる当日ボランティアの助けも大きい。

法人の理事は7人で、全員無給ではあるが、「持続可能な地域社会をつくろう」という意識は高く、活動の基本方針や企画運営を責任もって決めて、実施している。

専従有給スタッフは、月曜日から金曜日までの週5日間常勤し、日常的に発生する事務を処理している。このような常勤スタッフがいることは、活動に安定感と信頼感を与える。

イベント時には、ラピュタ創造研究所の会員などが当日ボランティアとして働いてくれる。この当日ボランティアの存在も大きい。理事スタッフと当日ボランティアの連携もうまくとれている。

(2) 活動のための資金調達

活動の資金は、金額の大きい順に、行政からの補助金・委託事業費、銀行からの借入金、ラピュタ創造研究所会員の会費、事業収益金、寄付金である。活動の継続性・信頼性・迅速性を確保するために、ラピュタ創造研究所はコミュニティ・ビジネス的手法を取り入れて活動を進めている。

(3) 活動のネットワーク・支援

福井県内の主要NPOとはインターネットを介して常に連絡を取り合っている。福井県および武生市の、関連する行政スタッフとも常に連絡を取り合っている。さらに地区内の職人、芸術家、造形作家、料理人、学者、芸人、技術者、宗教家、政治家、企業家とも情報交換をしている。

ふくい県民活動センター（福井県のNPO活動支援機関）からの支援および同センター紹介によるNPO中間支援組織からの指導の効果も大きい。